



動画をご覧になるにはQuickTime (無料) が必要です。

全国ニュース

十鉄が鉄道事業から撤退 (11日20:10)

十和田観光電鉄は、赤字経営が続いている鉄道事業に沿線自治体からの財政支援が得られないことから、来年の3月31日で鉄道を廃止し、路線バスにする方針を正式に表明しました。

十和田観光電鉄では、沿線の十和田市、三沢市、六戸町に、およそ5億2000万円の財政支援を求めていました。しかし、沿線自治体から断られたため、きょう開かれた十和田観光鉄道活性化協議会の臨時総会で、「鉄道事業の維持は難しい」などとして、来年3月31日で鉄道を廃止することを表明しました。そして、4月1日からは路線バスを運行する考えを示しました。十和田観光電鉄の白石鉄工門社長は会見で、「自分の代で閉じるということに対しは断腸の思い」と述べました。また十和田市の小山田久市長は「90年という歴史もあるのでさびしいと、市民も思っていると思う。一方では時代の変化ということもあるのも事実。私どもも手順で定めたという判断」と話しています。十和田観光電鉄はきょうの協議会に、来年4月に運行する路線バスの素案を示しました。それによりますと、バスの路線は現在の駅のある場所ではなく、十和田市と三沢市の中心街を結ぶ路線を新設して、1日17往復程度のバス運行をする他、学生の登下校の時間に合わせてシャトルバスを運行するとしています。



深浦沖にGPS波浪計 (11日20:09)

いち早く津波を観測して情報を提供するため、気象庁はきょうから、深浦沖など日本海沿岸部に設置した3つの波浪計のデータの活用を始めました。これで太平洋沿岸とあわせて全国15か所で観測が始まりました。

気象庁が、きょうから津波の観測を始めたのは、青森県の深浦沖、秋田県の男鹿沖、山形県の酒田沖の3か所です。観測は国土交通省が4年前から整備を進めてきたGPS波浪計を使って行われ、津波が陸に到達する数分から10分ほど前に観測することができます。気象庁はこれまで、太平洋沿岸部の12か所で観測をしてきましたが、日本海沿岸での観測はこれが初めてです。青森県では深浦沖およそ15キロの地点に波浪計が設置されています。そこで観測した波の高さのデータは、青森市の青森港湾事務所に送られてきます。ことし3月の震災の時には、太平洋沿岸の波浪計が観測したデータが活用されたということです。県内では、八戸沖にも2008年に波浪計が設置されていますが、現在、故障中で、来年3月の復旧が予定されています。



カプセルに復興の願い (11日20:08)

八戸市でおととい、津波の恐ろしさを後世に伝えるときにも、復興を願うメッセージなどを入れたタイムカプセルが土の中に埋められました。

八戸青年会議所は、津波の恐ろしさと震災からの復興を願う市民の思いをタイムカプセルに詰めて、後世に伝えることにしました。ステンレス製のタイムカプセルには、津波で岸壁に打ち上げられた船などを撮影した写真や未来の八戸市を描いた子どもたちの絵、それに30年後の自分や家族にあてたメッセージが詰め込まれました。そして、おととい八戸市のまつりんぐ広場で埋設式が行われ、八戸青年会議所の高橋誠理事長が最後のボルトを締めました。高橋理事長は「困難をしっかりと克服出来るよう我々若い世代がしっかりと一歩一歩、歩いて行って次の新しい世代のみんなに引き継いで行きたい」と話しています。タイムカプセルは、深さが1メートルほどの土の中に埋められ、参加した人たちは震災からの復興を願っていました。参加した小学生は「小学校6年生なので42歳になった時に無事に掘り返せばいいと思って埋めました」と話していました。タイムカプセルは、30年後の2041年3月11日に開封されることになっています。



ワイン用のブドウ収穫 (11日20:07)

むつ市にあるワイナリーでは、きょうからワインの仕込みに使うブドウの収穫が始まりました。

むつ市川内町の斐川地区にある「サンマールワイナリー」の農場では、ワインの原料となる7種類のブドウが栽培されています。このうち、白ワインの原料となる

